第１章　遠野市の概況と課題

遠野市の土地利用や産業などの概況とまちづくりの課題について整理します。

第１章　遠野市の概況と課題

（１）遠野市の概況

１）人口の推移

①　人口・世帯

本市の人口は、28,062 人（平成 27 年国勢調査）であり、社会情勢の変化、急速な少子高齢社会の進行、若者の地方流出等による人口減少が顕著に見られます（国勢調査に基づいて合併等の変遷を考慮し、現在の遠野市域で整理）。地区別に人口推移をみると、全ての地区で緩やかな減少傾向が続いています。

世帯数は、平成 17 年をピークに減少傾向であり、平成 27 年には 9,973 世帯となっています。一世帯あたりの人員は、県平均の 2.60 人／世帯を上回っていますが、人口と同様に減少しており、平成 27 年には 2.81 人／世帯となっています。

図　遠野市全体人口の推移

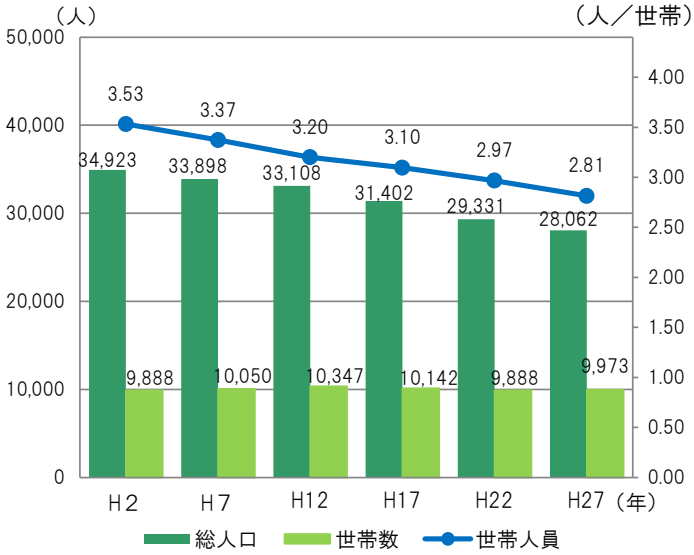
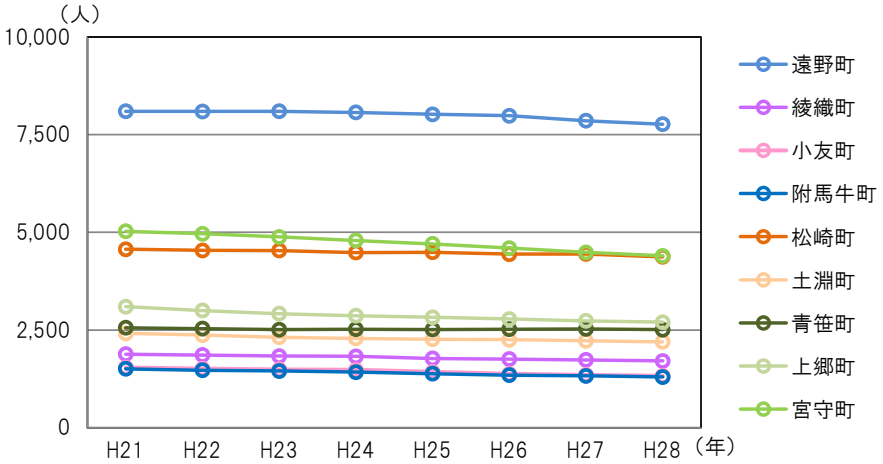


表　行政区域・都市計画区域内の人口推移　（単位：人、%）

	H７年	H12 年	H17 年	H22 年	H27 年
行　政　区　域	33, 898	33, 108	31, 402	29, 331	28, 062
旧都市計画区域 上段：人口 下段：割合	15,190 (44.8)	15,437 (46.6)	14,786 (47.1)	15,367 (52.4)	14, 085 (50. 2)
現都市計画区域 上段：人口 下段：割合	19, 046 (56. 2)	19, 092 (57. 7)	18, 213 (58. 0)	17, 231 (58. 7)	16, 811 (59. 9)

データ：行政区域人口は都市計画基礎調査（H17 年以前は、旧宮守村含む）、旧都市計画区域人口は都市計画基礎調査、現都市計画区域人口は国勢調査を基に算出

図　地域別人口の推移



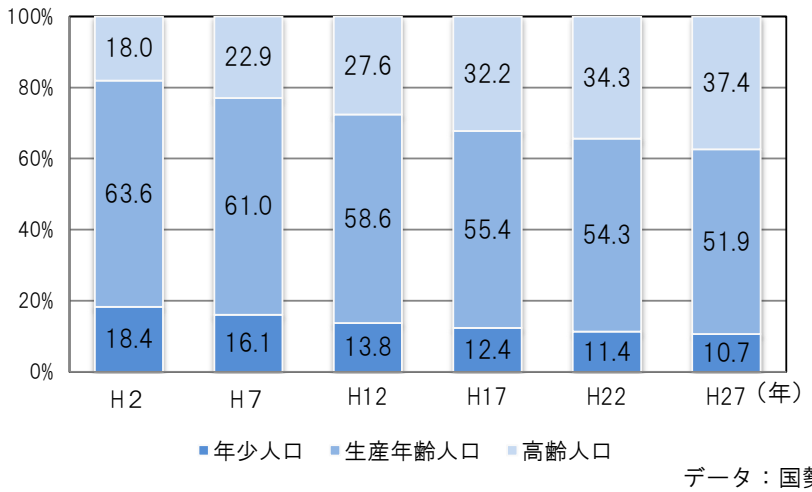
データ：住民基本台帳（各年９月１日現在）

② 年齢別人口の推移（３区分）

年齢別人口を「年少（０～14 歳）」、「生産（15～64 歳）」、「高齢（65 歳以上）」の３つに区分してその推移をみると、平成２年では「年少人口」と「高齢人口」は、ほぼ同じ比率であったものの、平成 27 年には年少人口の３倍を超える高齢人口となっており、急速な勢いで少子高齢社会が進行しています。

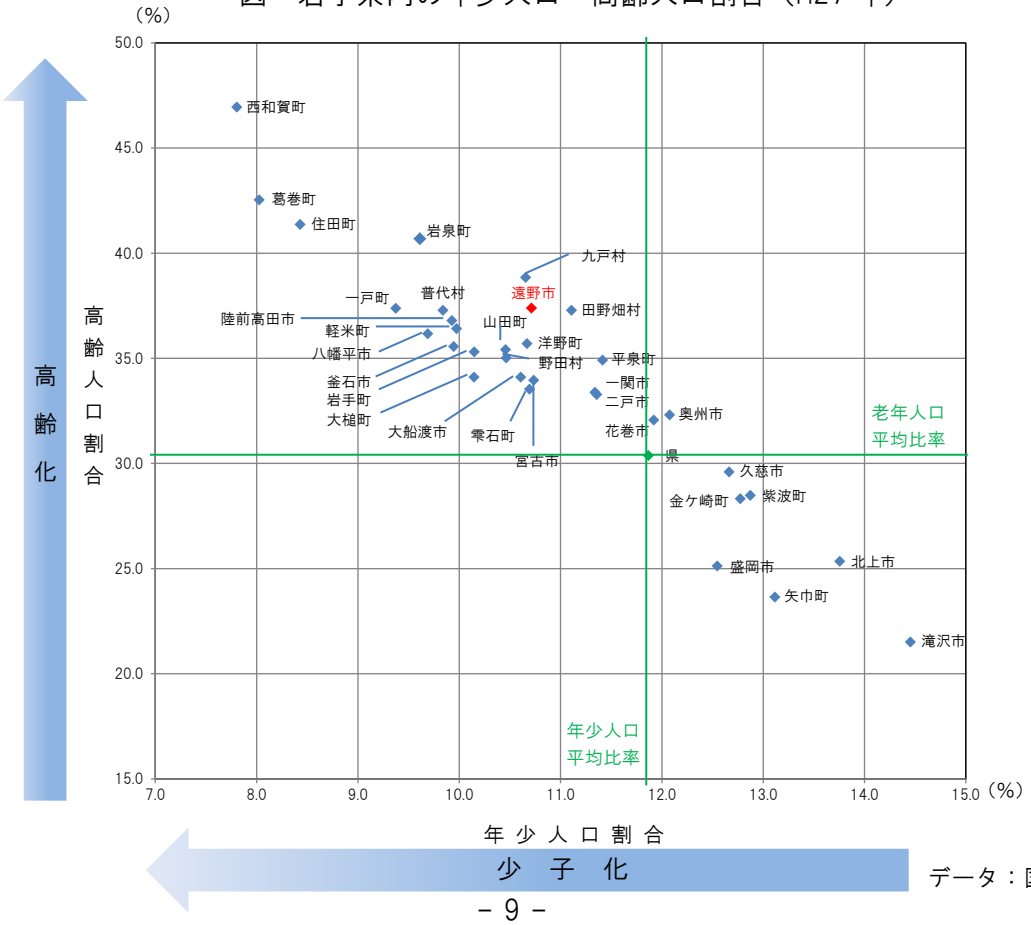
なお、年少人口比率は県平均 11.9％に対して 10.7％、高齢人口比率は同じく 30.4％に対して 37.4％と、岩手県の中でも上位の少子高齢化率となっています。

図　年齢別人口の推移（３区分）



データ：国勢調査

図　岩手県内の年少人口・高齢人口割合（H27 年）



データ：国勢調査

２）土地利用

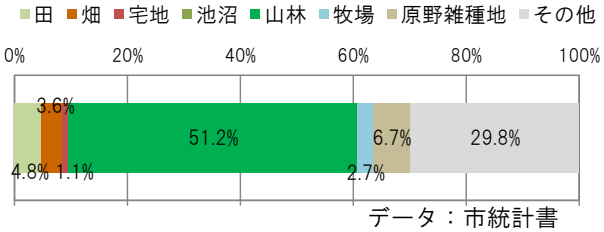
① 地目別土地利用

市全体の土地利用をみると、行政区域面積82,597haのうち、山林が51.2％と最も多く、次いで田・畑を合わせた農地が8.4％、原野・雑種地が6.7％、牧場が2.7％、宅地が1.1％となっています。

また、都市計画区域（面積約5,923ha）では、田・畑を合わせた農地が45.6％、山林が34.0％、その他低湿地・荒地・水面を合わせた自然的土地利用が８割以上を占めています。

一方、都市的土地利用は17.4％となっており、その内訳をみると、住宅地が46.2％、交通用地が20.0％、公共用地が8.8％、次いで工業用地、公共空地、商業用地の順となっています。

図　市全体の土地利用



データ：市統計書

図　都市計画区域の土地利用

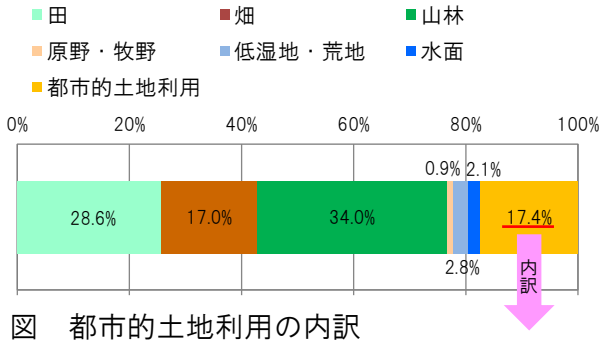
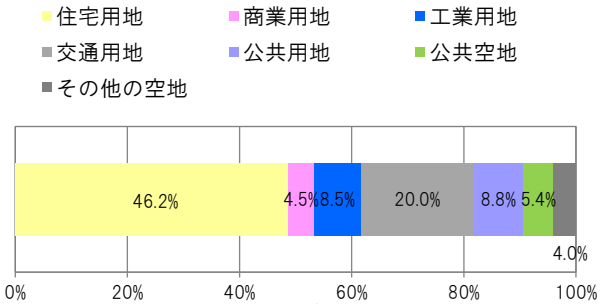


図　都市的土地利用の内訳



データ：図上計測による

② 用途地域等

本市の都市計画区域は、行政区域の約7.2％にあたる5,923haの区域に指定されています。また、都市計画区域のうち、遠野市の中心市街地周辺及び遠野東工業団地の併せて387haの区域に用途地域※3を指定しており、住居系用途地域が５種類の233ha（60.2％）、商業系用途地域２種類の46ha(11.9％)、工業系用途地域が２種類の108ha(27.9％)となっています。

（単位：ha、％）

行政区域（82,597ha）		面　積	割　合
都市計画区域（5,923ha、7.2％）	用途地域	387	0.5
	用途地域外	5,536	6.7
都市計画区域外		76,639	92.8

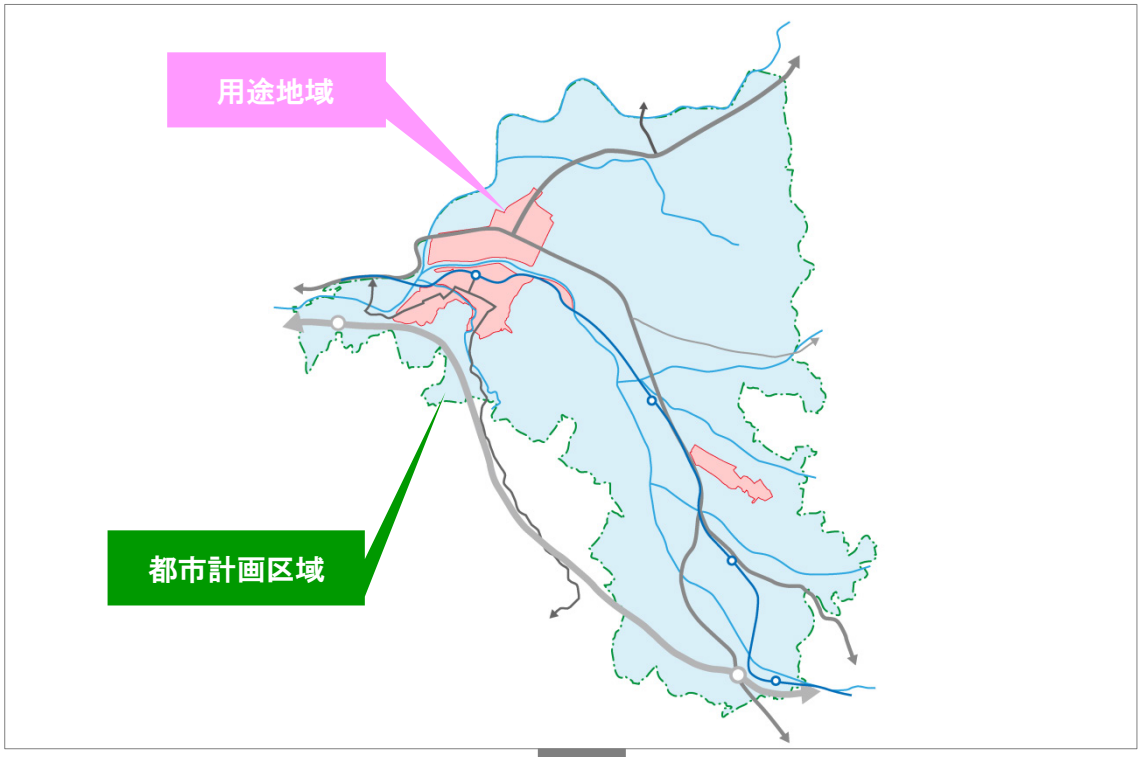
用途地域（387ha）		
第一種低層住居専用地域	64	16.5
第一種中高層住居専用地域	56	14.5
第二種中高層住居専用地域	13	3.4
第一種住居地域	95	24.6
第二種住居地域	5	1.2
近隣商業地域	29	7.5
商業地域	17	4.4
準工業地域	60	15.5
工業地域	48	12.4

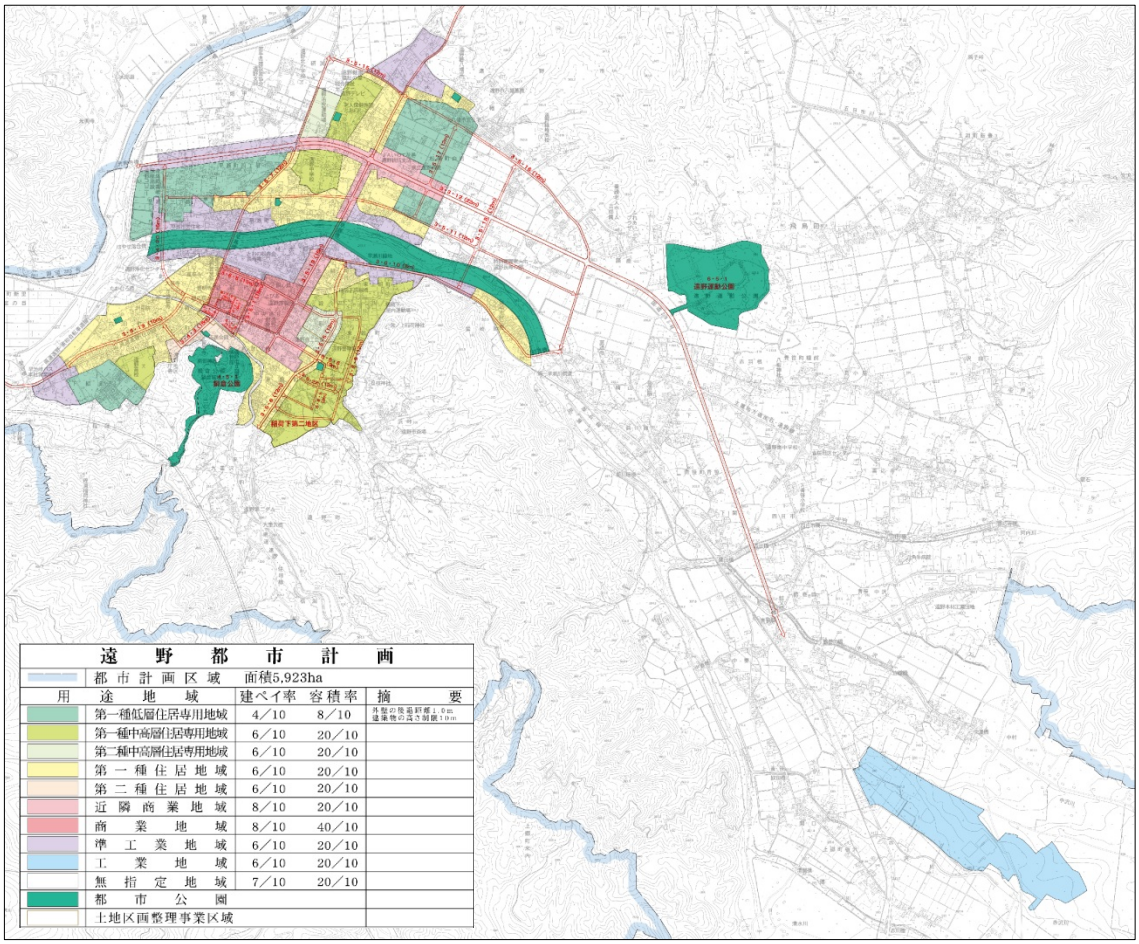
データ：都市計画基礎調査

用語解説

【※３用途地域】住居、商業、工業などを適正に配置して、都市全体の土地利用の基本的な枠組みを設定するものであり、地域地区のうち最も基礎的な制度。

図　都市計画区域・用途地域





※都市計画道路及び都市公園の見直し前の版

３）市街地整備

本市では、無秩序な市街化の抑制、魅力ある中心市街地・商業空間の形成及び快適な生活環境を確保するため、下一日市地区、稲荷下地区、稲荷下第二地区の３地区の土地区画整理事業を実施し、いずれの地区も完了しています。

表　土地区画整理事業

事　業　名	施行主体	施行面積（ha）	施行期間
稲荷下地区土地区画整理事業	市	27.1	昭和 53 年度 ～ 平成６年度
下一日市地区土地区画整理事業	市	5.1	平成６年度 ～ 平成 20 年度
稲荷下第二地区土地区画整理事業	市	19.7	平成 12 年度 ～ 平成 29 年度

図　土地区画整理事業

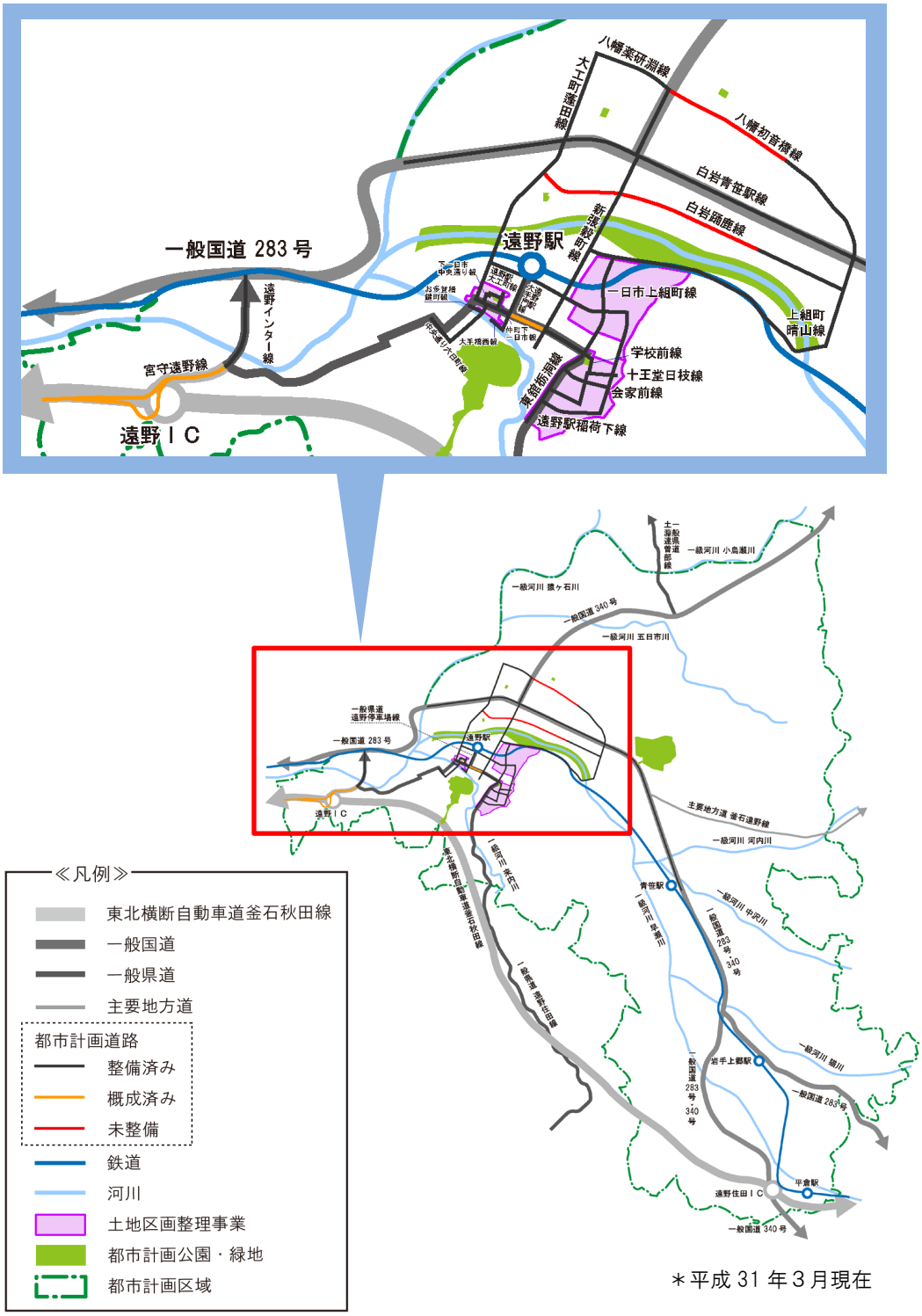
データ：都市計画基礎調査

４）道路・交通

① 都市計画道路

本市の都市計画道路は 23 路線（延長約 33,040m）が都市計画決定され、整備済区間が約 21,190m、概成済区間が約 9,470m、未整備区間が約 2,380m となっており、整備率は 64.1％となっています。

図　都市計画道路の整備状況



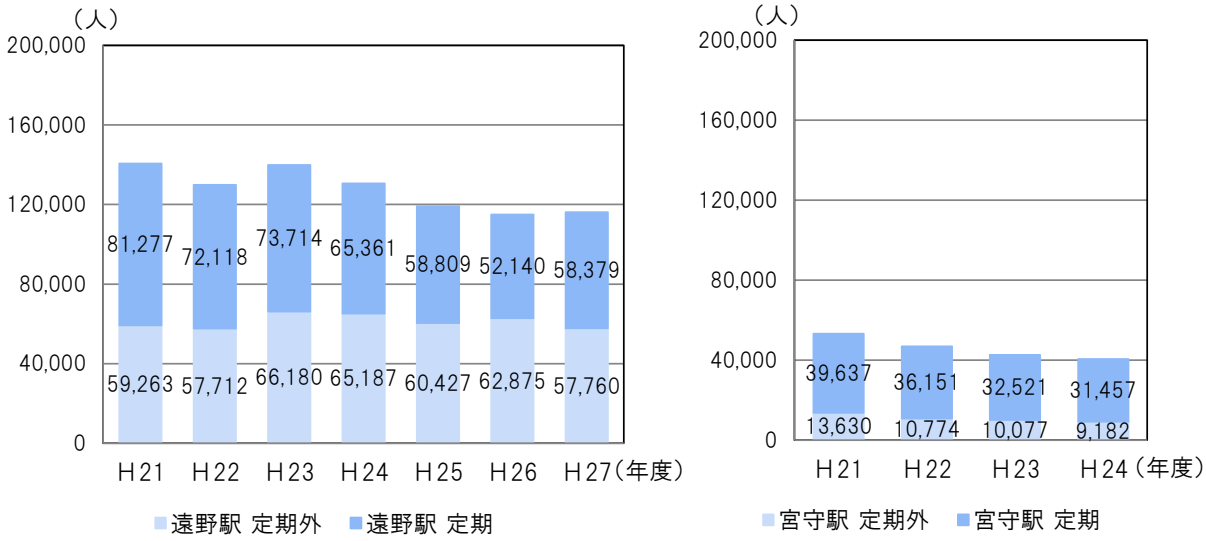
＊平成 31 年３月現在

② 公共交通

本市の公共交通として、鉄道路線は花巻駅～釜石駅間を運行するＪＲ釜石線があり、上り・下りでそれぞれ１～２時間に１本程度の割合で運行しています。市内には 12 駅あり、都市計画区域内には４駅立地していますが、一日平均乗車人員は、遠野駅が約 320 人（平成 27 年度）、宮守駅が約 110 人（平成 24 年度）となっており、年々減少傾向にあります。

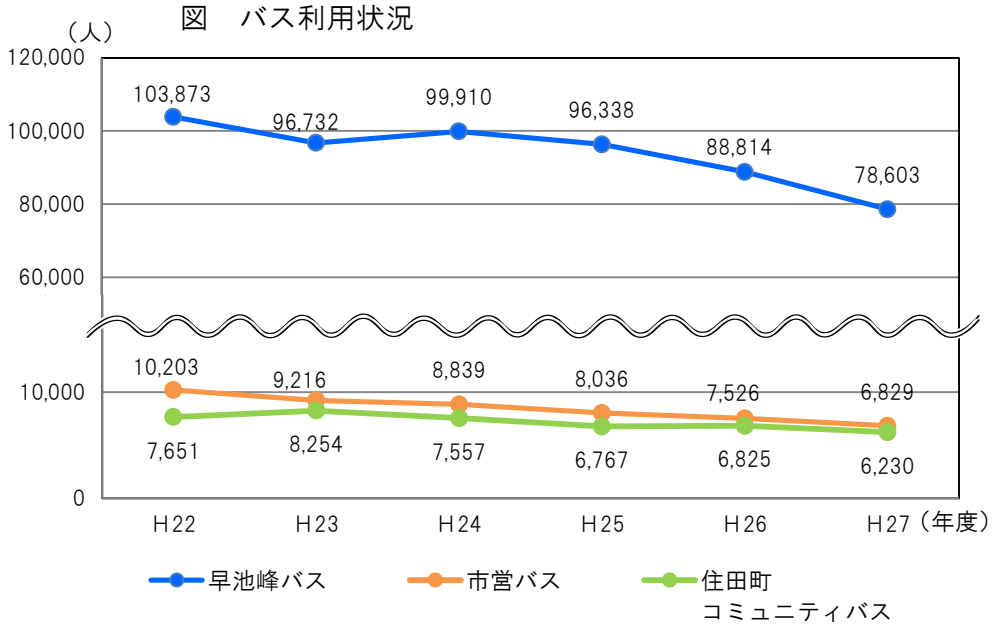
バス路線は、岩手県交通による路線と住田町コミュニティバスが運行されており、鉄道と同様に利用客は年々減少傾向にあります。

図　ＪＲ釜石線遠野駅・宮守駅の乗車人員



※宮守駅（平成 25 年度以降）、青笹駅、岩手上郷駅及び平倉駅は無人駅でありデータ非公表
データ：市統計書

図　バス利用状況



※早池峰バスは平成 29 年４月に岩手県交通（株）に統合
データ：市統計書

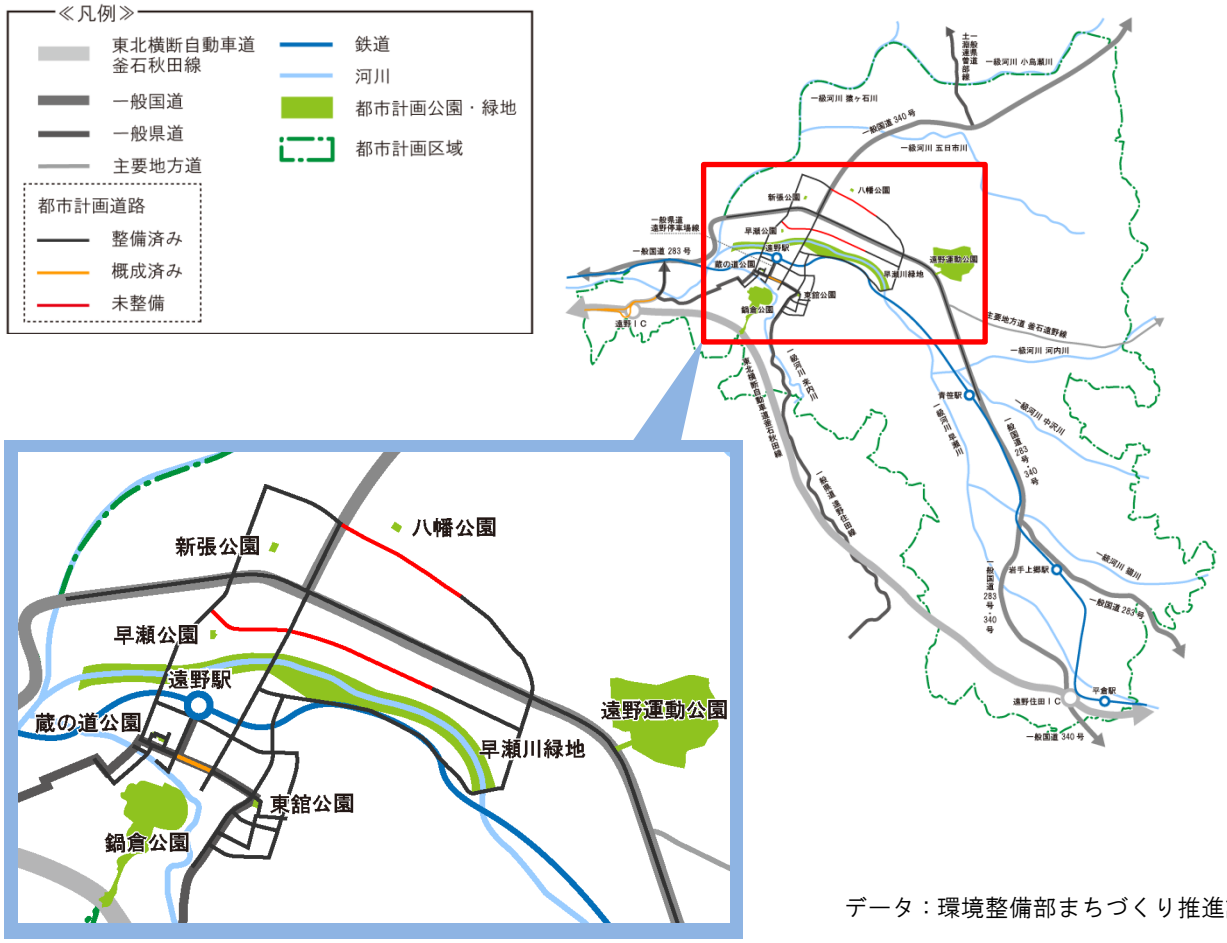
５）公園・緑地

都市計画決定している公園･緑地は、街区公園が５箇所、地区公園が１箇所、運動公園が１箇所、緑地が１箇所の計８箇所あります。その他に条例で定められている公園として、市内には農村公園が14箇所、市民運動公園が２箇所、地域公園が９箇所、広場等が３箇所、児童遊園が１箇所の計37箇所あります。

表　都市計画公園・緑地　（単位：ha、%）

種別	名称	計画面積	整備率
街区公園	蔵の道公園	0.21	100.0
	東舘公園	0.23	100.0
	新張公園	0.23	100.0
	早瀬公園	0.23	100.0
	八幡公園	0.22	100.0
地区公園	鍋倉公園	14.00	100.0
運動公園	遠野運動公園	29.00	100.0
緑地	早瀬川緑地	33.60	9.2
合　　計		77.72	60.8

図　都市計画公園・緑地



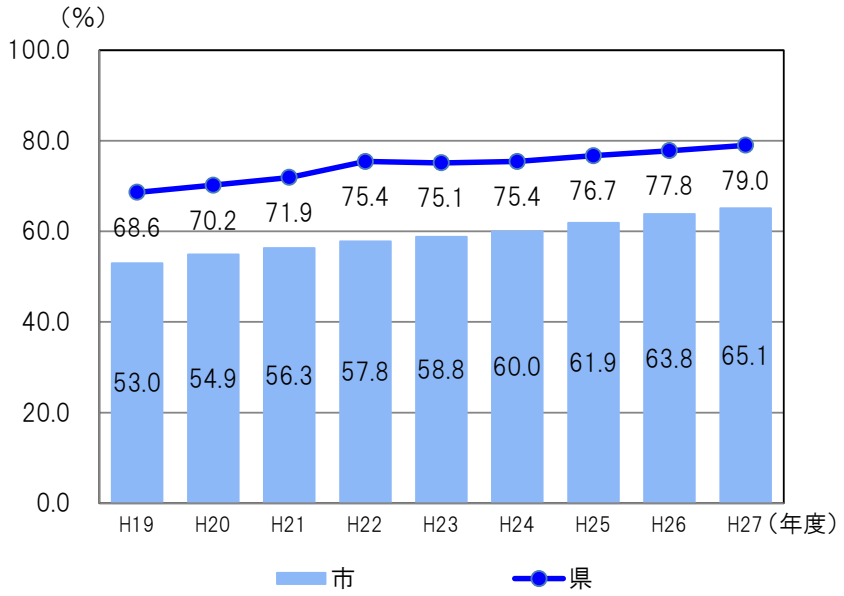
データ：環境整備部まちづくり推進課

６）下水道

本市の汚水処理は、公共下水事業、農業集落排水事業及び浄化槽整備事業を推進していますが、汚水処理人口普及率※4は平成27年度末現在65.1％で県全域の79.0％を下回っています。

河川などの水質を保全するため、また、衛生的な生活環境や豊かな自然環境に恵まれた本市の財産を未来に継承していくため、生活排水の適切な処理を積極的に推進していく必要があります。

図　汚水処理人口普及率の推移



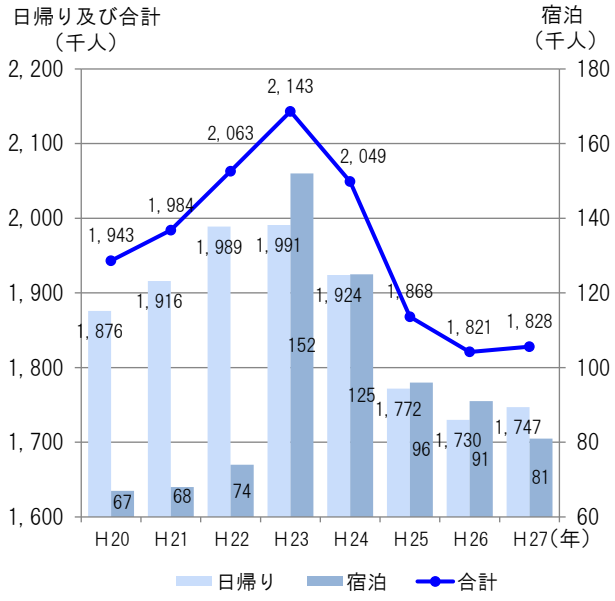
データ：岩手県県土整備部下水環境課

用語解説

【※４汚水処理人口普及率】下水道、農業集落排水施設等及びコミュニティプラントを利用できる人口と合併処理浄化槽を利用している人口を加えた値を、総人口で除して算定した汚水処理施設の普及状況の指標。普及率＝整備人口/行政人口。

７）観光

図　主要観光施設入込人数



データ：市統計書

本市には、国指定重要文化財である「南部曲り家千葉家」や「菊池家曲り家（伝承園）」、その他「遠野ふるさと村」、「たかむろ水光園」などの観光文化施設が点在するとともに、美しい農村景観や自然景観、また、伝承されてきた数多くの昔話、市独自の認定制度による遠野遺産など、特色ある豊かな観光施設・資源があります。

主要観光施設の入込人数は、『遠野物語』の発刊100周年を迎えた平成22・23年に約200万人まで増加したものの、現在では徐々に東日本大震災前の入込状況に戻ってきています。また、平成23年に宿泊客が増加しましたが、この要因は震災に対する復興支援団体等の宿泊客増加によるものです。

図　主な観光施設（地区別）※下線部は都市計画区域内の施設

【遠野地区】
鍋倉公園、博物館、遠野蔵の道ギャラリー、遠野城下町資料館、遠野まちなか・ドキ・土器館、とおの物語の館、旅の蔵遠野、旧村兵商家、会下の十王堂、法華題目の碑、池端の石臼、多賀神社、愛宕神社、智恩寺、卯子酉神社、五百羅漢　等

【土淵地区】
カッパ淵、佐々木喜善生家、伝承園、山口の水車小屋、常堅寺、早池峰古参道跡、デンデラ野、山崎のコンセイサマ、ダンノハナ、北川家のオシラサマ、たかむろ水光園、栃内観音、遠野早池峰ふるさと学校　等

【綾織・松崎地区】
道の駅遠野風の丘、千葉家、諏訪神社、福泉寺、清心尼公の碑、太郎カッパ、阿曽沼公歴代碑、村兵稲荷、松崎観音、続石、羽黒岩、光明寺の綾織、遠野馬の里　等

【宮守地区】
道の駅みやもり、コテージランドかしわぎ、鱒沢やな、砥森山、鞍迫観音、宮守観音、金取遺跡、めがね橋、寺沢高原、稲荷穴　等

【附馬牛町・青笹・上郷・小友地区】
遠野ふるさと村、早池峯神社、駒形神社、菅原神社、巌龍神社、郷土人形民芸村、六神石神社、平倉観音、日出神社、笹谷観音、山谷観音、藤沢の滝、荒神様　等

データ：遠野市観光推進計画

８）産業

① 農業

農家数（販売農家数）は全体として減少傾向です。専業農家については平成12年から22年まで増加しましたが、平成27年は減少しています。また、経営耕地面積は年々減少傾向にあり、平成２年に比べて平成27年では約４割減少しています。

図　農家数（販売農家数）の推移

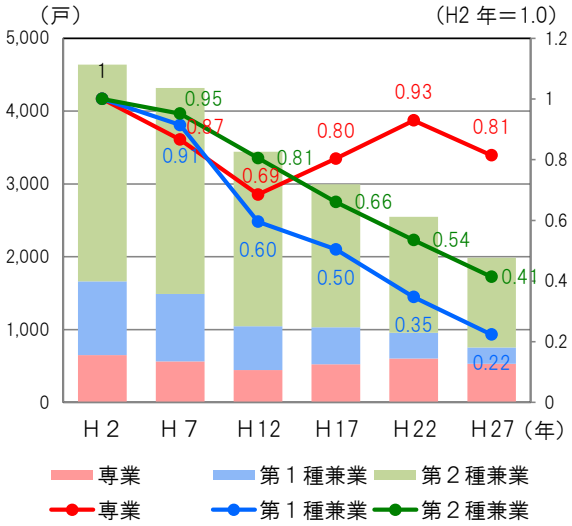
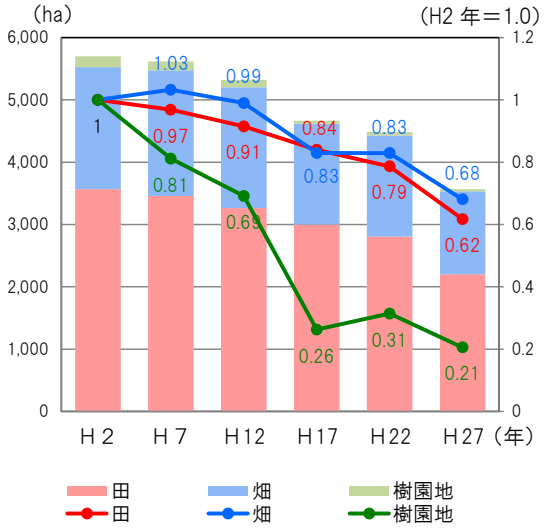


図　経営耕地面積の推移



データ：市統計書（各年２月１日現在）

② 工業

製造業の事業所数は、平成21年から減少傾向でしたが、平成27年に増加に転じました。従業者数については、平成21年以降はほぼ横ばい傾向にあります。

製造品出荷額は平成22年から増加傾向に転じ、特に平成25年からの２年間で約150億円増加しています。

図　従業者数・事業所数の推移（製造業）

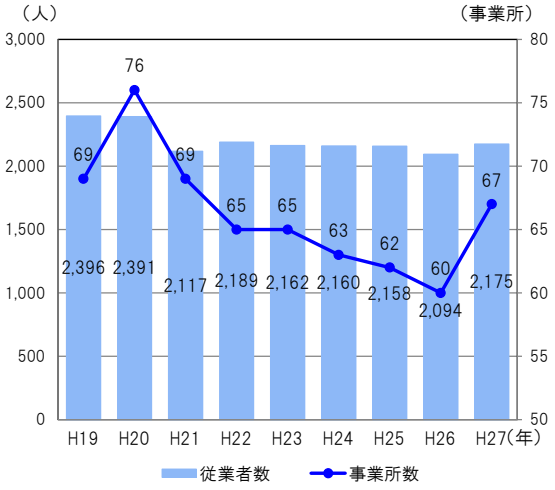
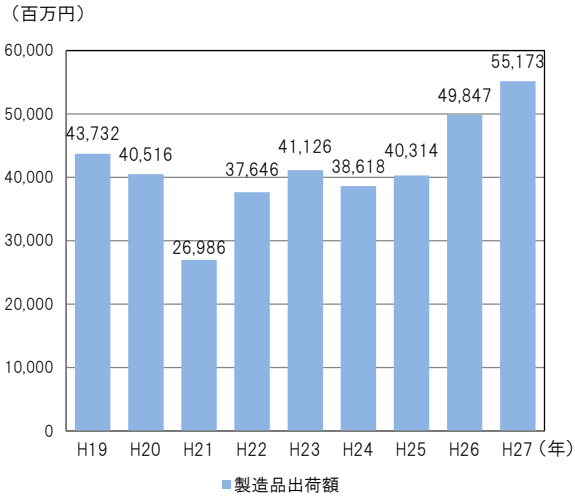


図　製造品出荷額の推移



データ：工業統計調査（各年 12 月 31 日現在）

③ 商業

小売業の従業者数及び事業所数は平成24年までは減少傾向でしたが、その後、下げ止まりの兆候が見られます。一方で１事業所当たりの売場面積は増加が続いており、商業機能が大規模小売店舗に集約されている傾向が読み取れます。また、年間商品販売額は約260億円前後となっています。

図　従業者数・事業所数の推移（小売業）

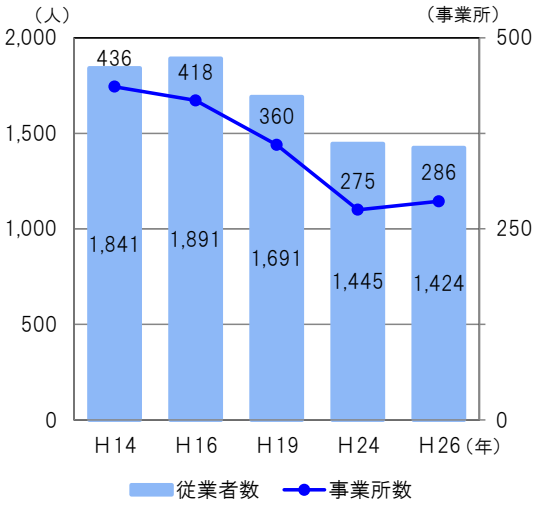
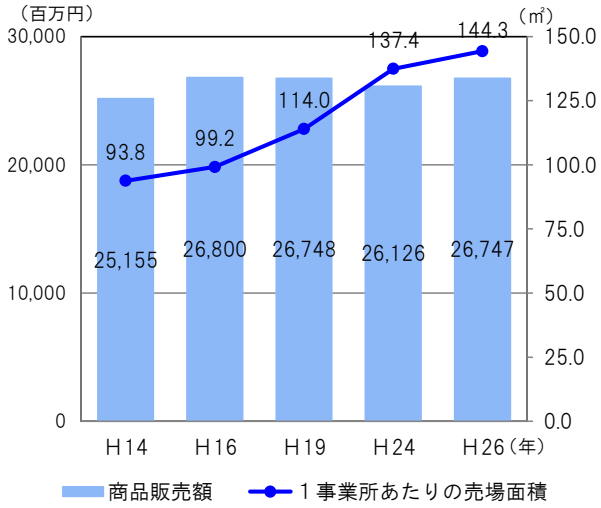
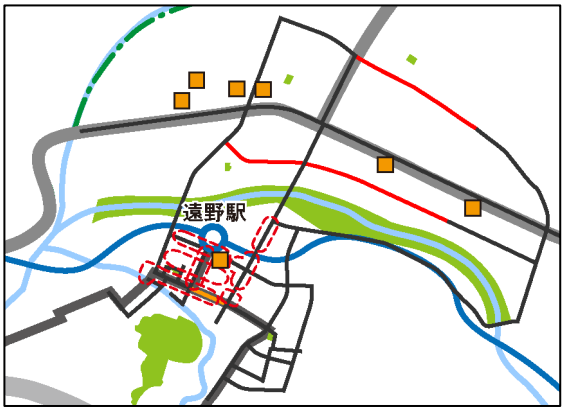


図　商品販売額等の推移（小売業）



データ：市統計書（H24 年以外各年６月１日現在）
経済センサス活動調査(H26 年２月１日現在)

（遠野駅周辺）



（宮守駅周辺）

大規模小売店舗一覧（店舗面積 1,000 ㎡以上）

- ○市中心市街地活性化センター（とぴあ）（キクコーストアとぴあ店）
- ○ホーマック遠野店
- ○コメリホームセンター遠野店
- ○アクティ・マーケットプレイス
- ○ビックハウス遠野店
- ○ツルハドラッグ遠野店
- ○キクコーストア明神前店
- ○みやもりリバーサイド・ショッピングタウンmm１

≪凡例≫

- 東北横断自動車道 釜石秋田線
- 一般国道
- 一般県道
- 主要地方道
- 都市計画道路
  - 整備済み
  - 概成済み
  - 未整備
- 鉄道
- 河川
- 都市計画公園・緑地
- 都市計画区域
- 大規模小売店舗
- 商店街

データ：岩手県　市町村別届出店舗一覧及び
『全国大型小売店総覧』東洋経済新報社

９）防災

小中学校や自治会館、地区コミュニティ消防センターを中心に、災害時の避難場所は市内全133箇所、福祉避難所は33箇所が位置づけられており、都市計画区域内には、59箇所が位置づけられています。

図　指定避難所・指定緊急避難場所

データ：遠野市地域防災計画

（２）市民意向調査

１）調査概要

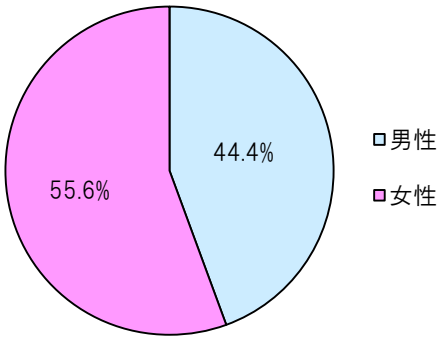
本アンケートは、遠野市都市計画マスタープランの見直しに向けて、本市全域を対象に市民のまちづくりに対するニーズ等を把握し、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

表　配布・回収状況

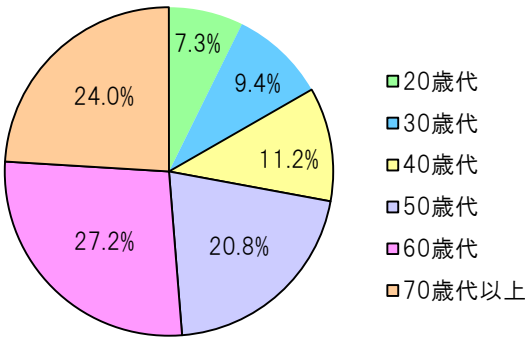
項　　目	内　　容
配布対象者	20 歳以上の市民
抽出方法	無作為抽出
実施時期	平成 25 年 10 月～11 月
標本数	1,000 票
回収票数	437 票
回収率	43.7%
標本誤差	3.6%

図　アンケート回答者の属性

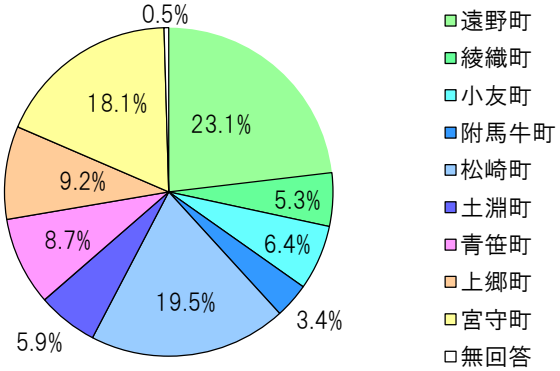
○ 性別



○ 年齢

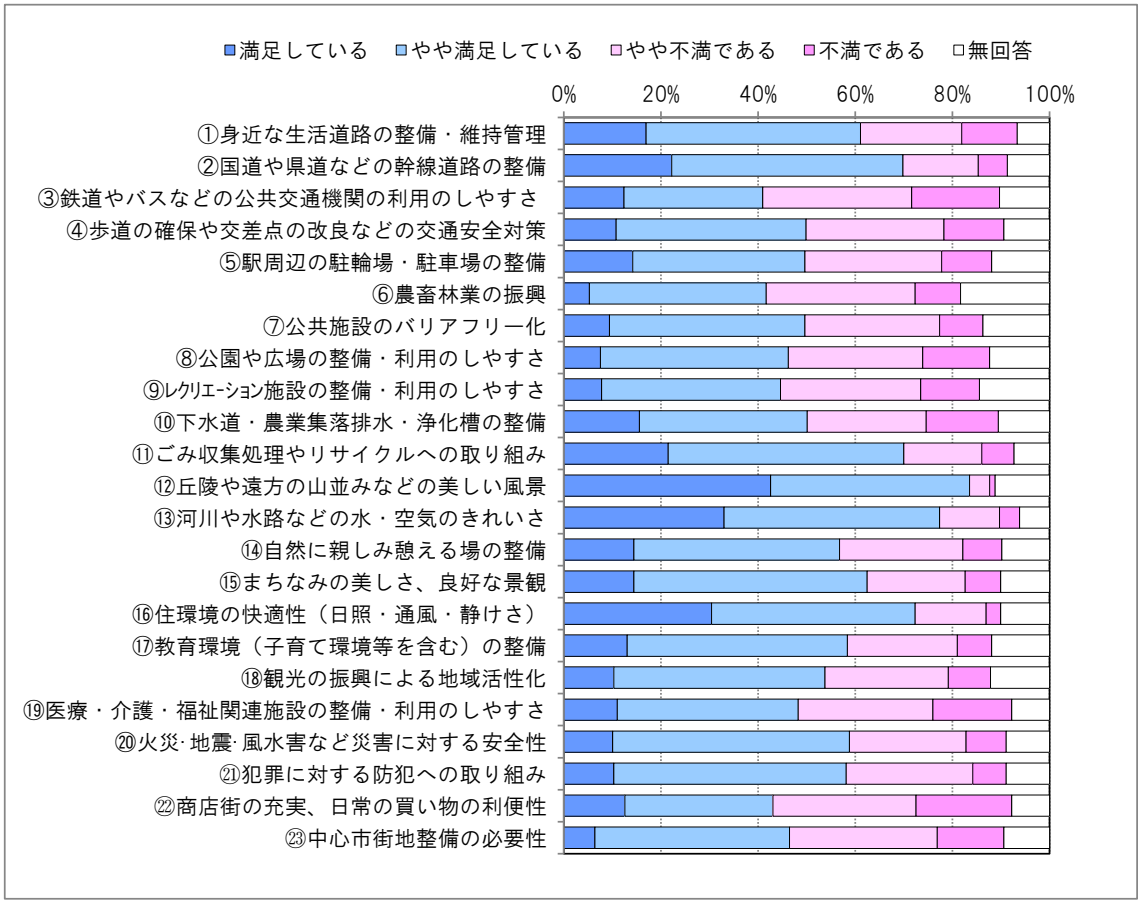


○ 居住地域



２）主な調査結果

①　地域の現状に対する満足度



【満足度が高い項目（満足＋やや満足の割合が多い項目）】

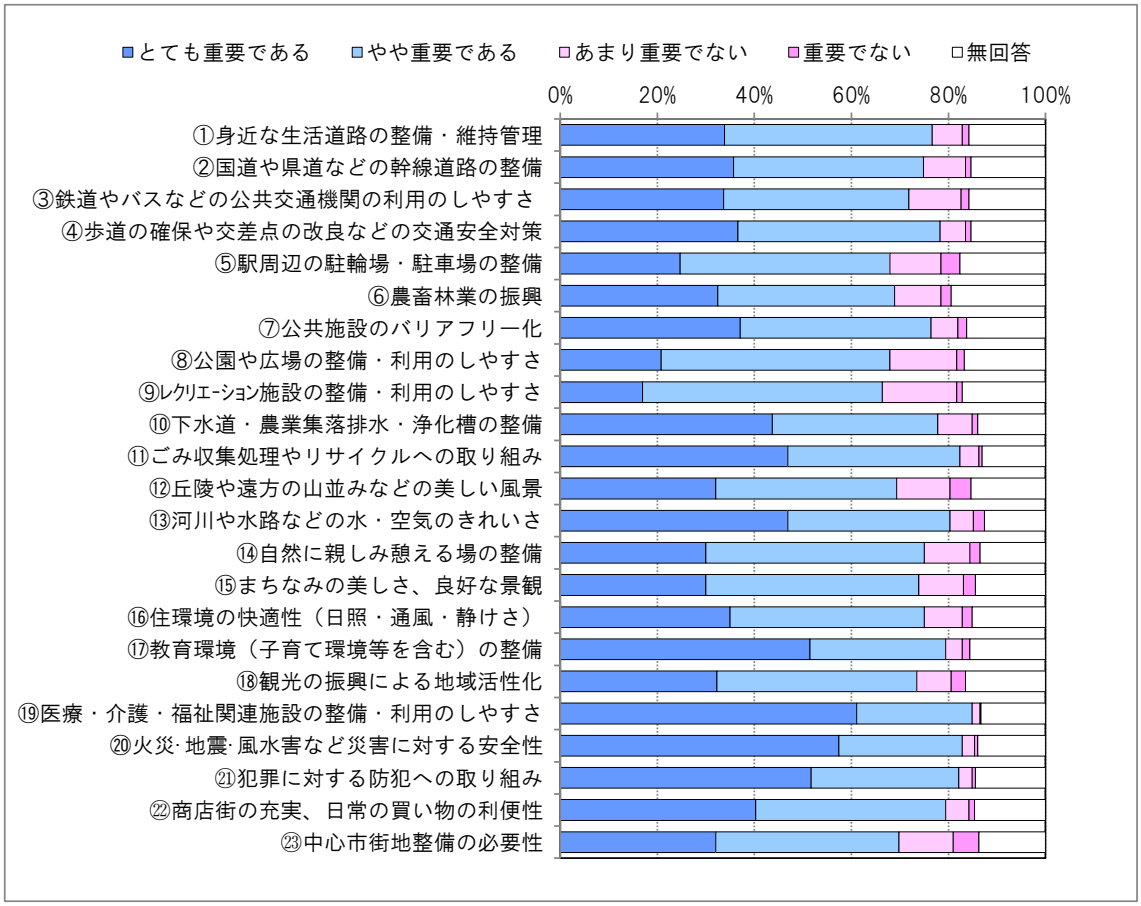
□ 現在住んでいる地域の満足度については、「⑫丘陵や遠方の山並みなどの美しい風景（83.6%）」が最も多く、次いで「⑬河川や水路などの水・空気のきれいさ（77.4%）」、「⑯住環境の快適性（日照・通風・静けさ）（72.3%）」の順となっており、自然環境や暮らしやすさに関して高い満足度が得られています。

□ また、これまでの取り組みの成果である「⑪ごみ収集処理やリサイクルへの取り組み（70.0%）」や「②国道や県道などの幹線道路の整備（69.8%）」について満足度が高くなっています。

【満足度が低い項目】（やや不満＋不満の割合が多い項目）】

□ 「㉒商店街の充実、日常の買い物の利便性（49.2%）」が最も満足度が低く、次いで「③鉄道やバスなどの公共交通機関の利用のしやすさ（48.8%）」、「㉓中心市街地整備の必要性（44.1%）」の順となっています。

②　今後のまちづくりにおける重要度



□ 今後のまちづくりにおける重要度では、「⑲医療・介護・福祉関連施設の整備・利用のしやすさ（84.9%）」が最も高く、地域医療機関の医師不足や高齢化社会を反映した結果となっています。

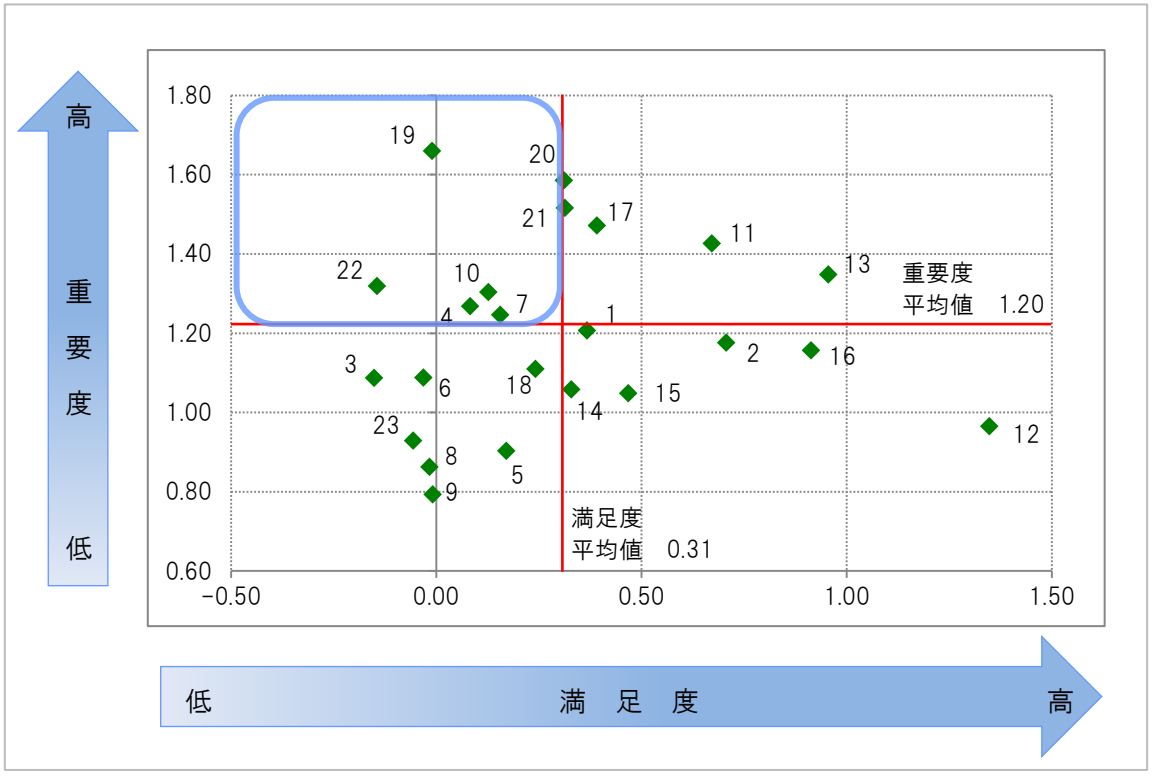
また、「⑳火災・地震・風水害など災害に対する安全性（82.8%）」、「㉑犯罪に対する防犯への取り組み（82.1%）」の項目も重要度が高く、防災・防犯に対する意識が高い結果となっています。

□ さらに、「⑪ごみ収集処理やリサイクルへの取り組み（82.4%）」、「⑬河川や水路などの水・空気のきれいさ（80.3%）」の占める割合も高く、環境負荷低減や自然環境と共生するまちづくりが望まれています。

③　今後のまちづくりにおける優先度

「① 地域の現状に対する満足度」と「② 今後のまちづくりにおける重要度」を点数化し、平均値を基準（満足度：0.31、重要度：1.20）に、満足度が低くかつ重要度が高い項目を、今後市として重点的に取り組むべき項目として抽出しました。

【今後のまちづくりにおける優先度の高い項目】
④歩道の確保や交差点の改良などの交通安全対策
⑦公共施設のバリアフリー化
⑩下水道・農業集落排水・浄化槽の整備
⑲医療・介護・福祉関連施設の整備・利用のしやすさ
⑳火災・地震・風水害など災害に対する安全性
㉑犯罪に対する防犯への取り組み
㉒商店街の充実、日常の買い物の利便性



※点数計算式
「満足している」及び「とても重要である」　：　2
「やや満足している」及び「やや重要である」：　1
「不満ある」及び「あまり重要でない」　：－2
「やや不満である」及び「重要でない」　：－1
「無回答」　：　0

●各設問に対する満足度：満足度の合計／有効回答数
○各設問に対する重要度：重要度の合計／有効回答数

（３）まちづくりの課題

本市の特性を踏まえながらまちづくりを進めていく上で、確認しておくべき全国的な「時代の潮流」を以下のように整理します。

１）時代の潮流

① 人口減少、少子高齢化、世帯小規模化

□ 少子高齢化の進展、単身世帯や高齢の夫婦のみの世帯の増加などを背景に、日々の生活や移動に不安を抱える人、地域の支えを必要とする人が増加しています。一方で、第二の人生として、まちづくりや地域活動に意欲的に参加する高齢者も増えています。

□ 人口減少、少子高齢化による家族形態の変化、就労の多様化、地域コミュニティ意識の希薄化など、子ども・子育てを取り巻く環境が大きく変化する中で、子育て支援への要請が高まっています。子育てしやすい環境を整えるとともに、親を孤立させずに地域全体で子どもを守り育てていく環境づくりが求められています。

□ 人口減少期においても行政、医療、福祉、教育等の生活に必要なサービスを継続していくために、都市機能や住居が一定程度集約されたコンパクトなまちづくりが望まれます。

② 成長型社会から成熟型社会への転換

□ 人口が増加することを前提とした、量的な充足を第一に目指すこれまでの成長型のまちづくりから、質を高めることを重視した成熟型のまちづくりに転換していくことが求められています。

③ 価値観の多様化

□ 都市・社会の成熟化を背景に市民の価値観も変化し、「自然との調和」、「まちの質」や「うるおい」、「景観」、「地域社会や地域の歴史・文化、人とのふれあい」、「心の豊かさ」、「心のバリアフリー」、「共生社会」等への関心が高まっています。

④ 水と緑への関心、生物多様性の確保への要請の高まり

□ 世界的規模で地球環境への関心が高まっており、市民・企業を含めて自然環境や生活環境の維持・向上を図り、美しい姿で後世に引き継げるようにするための役割を果たしていく必要があります。

□ 「うるおい」や「やすらぎ」のある環境、景観を形成する水と緑への関心が高まっています。

《学校給食》

□ 地域で生産された農産物の地域内消費（地産地消）、地元食材の活用や郷土料理を活かした給食などを通じ、生産者の思いが伝わる「食育」への関心も高まっています。

□ 人々が生きていくためには、多様な生物がもたらす食料や資源などの恵みが不可欠であることから、生物多様性※5の確保への要請が高まっています。

⑤ 低炭素型・循環型まちづくりへの要請の高まり

□ 地球温暖化をはじめとしたさまざまな環境問題が顕在化する中で、二酸化炭素をできるだけ排出しない「低炭素社会」やリデュース（排出抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再資源化）を基本とした、ごみの減量化や資源のリサイクルなどを推進し、「循環型社会」への転換を図っていくことが求められています。

《リサイクルの取り組み》

⑥ 安全・安心への関心の一層の高まり

□ 平成23年３月の東日本大震災をはじめ、近年の大規模自然災害の増加やゲリラ的な豪雨による土砂災害・水害、犯罪不安の広がりなどを背景に、安全・安心の確保への関心が一層高まっています。

《消防演習》

用語解説

【※５生物多様性】あらゆる生物種の多さと、それらによって成り立っている生態系の豊かさやバランス。

２）まちづくり課題の整理

本市の現状や市民意向調査の結果、現在の社会情勢におけるまちづくりの全国的な時代の潮流を踏まえ、まちづくり課題を以下のように整理します。

《都市機能に関する課題》

① 都市機能の維持・集約

□ 本市の人口の約６割が都市計画区域に集中しており、遠野駅を中心として用途地域※3が指定され、行政機能や商業・業務機能が集積した本市の中心市街地を形成しています。しかしながら、用途地域内には、農地などの自然的土地利用が残存し、人口集中地区が形成されていない低密度の市街地となっています。

□ 今後は、人口減少や少子高齢社会の進行を見据え、公共事業の選択と集中、効率化が求められることから、「都市の機能を維持・集約し、利便性の高いまち」を目指していくことが望まれます。

② 中心市街地の活性化・魅力向上

□ 古くから本市の「顔」、「中心的商業地」を形成してきた遠野駅周辺をはじめとする中心市街地には蔵や町家などの趣のある町並み、集客性のある魅力資源がありますが、商店街の衰退や空き家の増加などによる中心市街地の空洞化・衰退化が深刻な課題となっています。

□ そこで、遠野駅周辺をはじめとする中心市街地は、観光客などの来訪者が降り立つ場所であり、「訪れて良かった」、「また、訪れたい」と思える遠野ならではの歴史・文化を活かしながら、回遊性の創出や新規店舗の出店を促進し、市を牽引していく中心市街地としてのにぎわい創出に継続的に取り組んでいく必要があります。

《市民意向調査》

「商店街の充実、日常の買い物の利便性」については、現状に対する満足度が低く、さらに今後のまちづくりにおける重要度が高いことから、商業の活性化、魅力の向上が強く求められています。

また、「中心市街地整備の必要性」についても現状に対する満足度が低いことから、中心市街地整備を今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

用語解説

【※３用途地域】ｐ10参照。

③ まちの活力の維持・増進と秩序ある土地利用の誘導

□ 東北横断自動車道釜石秋田線の開通や、一般国道340号立丸峠のトンネルが整備されたことにより、市内への流入交通量の増加が想定されることから、インターチェンジ（以下「ＩＣ」という）周辺などの開発需要が高まり、無秩序に開発が進むおそれがあります。

□ そこで、遠野ＩＣ及び遠野住田ＩＣ周辺においては、産業用地としての高まる開発需要や雇用創出に対応した新たな産業拠点の形成を図り、工業など産業振興による「活力のあるまち」を目指していくことが望まれます。

□ なお、一般国道283号沿道の用途地域※3が指定されていない地域（以下「無指定地域」という）については、周辺に広がる農地の維持・保全を図りつつ、秩序ある土地利用を図るための規制・誘導を行う必要があることから、特定用途制限地域などを活用することも考えられます。

《分野別の課題》

① 土地利用

□ 東北横断自動車道釜石秋田線の遠野ＩＣ及び遠野住田ＩＣ周辺は、新たな産業用地としての需要が見込まれることから、立地条件を活かした土地利用を図ることが望まれます。

□ また、用途地域縁辺部や幹線道路沿道などの宅地化が進む可能性のある無指定地域では、周辺環境の保全に努めながら、土地利用の規制誘導を行う必要があります。

□ ほ場整備などの基盤整備を実施した一団の優良農地については、農業生産環境の維持のため、農地の保全を図ります。

□ なお、都市計画区域外においては、土地利用状況や地権者等の意向を見極めながら、計画的に秩序ある土地利用を推進していく必要があります。

② 道路・交通

【都市計画道路の整備】

□ 道路はまちの骨格を形成する施設ですが、都市計画道路の整備率は平成27年度末時点で約52.9％と低い状況にありましたが、平成28年から30年まで都市計画道路の見直しを行い、長期未着手あるいは整備の見込みが無い等の路線及び区間を廃止しました。そのため、総延長が短縮され、平成30年度末には整備率が64.1％に向上しました。

□ 未整備の路線及び区間については、将来を見通し、効果等を総合的に検討し、整備していく必要があります。

用語解説

【※３用途地域】ｐ10参照。

【安全で快適な生活道路の整備】

□ 市民にとって、最も身近な生活道路は、すべての人が安全で安心して利用できるように整備を進めていく必要があります。

《市民意向調査》

「歩道の確保や交差点の改良などの交通安全対策」については、現状に対する満足度が低く、今後のまちづくりにおける重要度が高いことから、安全で快適な歩行環境の整備が求められています。

【市内公共交通網の充実】

□ 本市は、広大な市域であることから、市内を移動する交通手段を確保する必要があり、特に、高齢者等の自家用車を使用しない市民の足となる公共交通網の充実が望まれます。

□ また、鉄道やバスなどの公共交通機関は、市民の日常生活だけでなく、来訪者や観光客にとっても重要な交通手段であることからその確保が望まれます。

《市民意向調査》

「鉄道やバスなどの公共交通機関の利用のしやすさ」については、現状に対する満足度が低いことから、多様なニーズにこたえるため、総合交通体系の検討が必要となっています。

③ 都市施設（公園・緑地、下水道など）

【都市公園の整備及び管理】

□ 公園は、市民や観光客の憩い・集いの場、子どもの遊び場となっていることから、既存の街区公園などについては、地域ニーズや地域の実情に対応した整備や市民協働による管理が考えられます。

□ 遠野運動公園については、市民の健康増進とスポーツ・レクリエーションの活動の場としての活用促進を図る必要があります。

《市民意向調査》

「公園や広場の整備・利用のしやすさ」については、現状に対する満足度が低いことから地域のニーズなどに対応した整備・管理を推進していく必要があります。

【生物多様性の確保への要請の高まりに対応した緑地整備】

□ 生物多様性※5の確保への要請が高まっていることから、早瀬川緑地については、多様な動植物が生息・生育できる環境整備が望まれます。

用語解説

【※５生物多様性】ｐ26参照。

【浄化槽の推進による処理】

□ 本市の汚水処理人口普及率※4は平成27年度末で65.1％と県全体の79.0％を下回っていますが、人口が減少傾向にあることから、経済性や地域の実情を十分に踏まえつつ、効率的で効果的な処理方法を検討する必要があります。

《市民意向調査》

「下水道・農業集落排水・浄化槽の整備」については、現状に対する満足度が低く、さらに今後のまちづくりにおける重要度が高いことから、水質保全に向けた下水処理施設整備が強く求められています。

【駅周辺や主な公共施設のユニバーサルデザインへの配慮（バリアフリー化）】

□ 本市の高齢化率は、平成27年国勢調査時点で県平均（約30.4％）を上回る約37.3％と高齢化が進んでいます。このため、地域における高齢者の積極的な生活活動の取り組みへの支援が必要となります。

□ また、子どもや障がい者、外国人なども含めた多種多様な人々の共生社会の実現に向け、既存施設のバリアフリー化※6をはじめ、多くの人々にとって使いやすいユニバーサルデザイン※7に配慮した整備が望まれます。特に、駅周辺や医療、介護、福祉に関わる主要な公共公益施設については優先的な整備が求められます。

《市民意向調査》

「公共施設のバリアフリー化」については、現状に対する満足度が低く、さらに今後のまちづくりにおける重要度が高いことから、公共施設のユニバーサルデザインへの配慮（バリアフリー化）が強く求められています。

また、「医療・介護・福祉関連施設の整備・利用のしやすさ」も重要度が高い結果となっています。

④ 景観

【農村景観】

□ 農村、里山の景観は、多くの市民及び観光客に親しまれており、後世に残し、引き継いでいく必要があります。

《市民意向調査》

市民意向調査における地域の魅力として、７割弱の方が「自然が豊か」と回答しており、豊かな自然は市民の誇りでもあることから、後世に残していくことが求められています。

用語解説

【※４汚水処理人口普及率】ｐ16参照。

【※６バリアフリー化】高齢者や障がい者などが社会生活に参加する上で支障となる物理的な障害や精神的な障壁を取り除いた状態。一般的に、公共施設や道路などの段差解消や住宅内での障壁が取り除かれた状態として使われる。

【※７ユニバーサルデザイン】あらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方。

【都市景観】

□ 中心市街地では、大工町通りや下一日市地区の町並み景観形成を図るとともに、「とおの昔話村」に古民家を移築・改造し「とおの物語の館」としてリニューアルを行うなど、地域の文化的資源の活用と、歴史的建築物の保存・修復及び歴史的町並み景観の形成に努めています。

□ 一方、人口減少や後継者不足等を背景に管理が行き届かない空き家・空き店舗が増え、景観を阻害するばかりでなく、周りに危険を及ぼす例も発生してきていることから、それらに対する対策が求められています。

⑤ 観光

□ 本市には、平成 27 年には約 185 万人の観光客が訪れています。

□ 本市の玄関口となる遠野駅周辺などにおいては、情報発信・交流拠点としての機能の充実を図り、魅力的な観光地づくりが望まれます。

□ 減少する人口を補う交流人口（観光客など）を確保し、地域の活性化を図っていくことが望まれます。

《市民意向調査》

「観光振興による地域の活性化」については、現状に対する満足度が低いことから、地域の活性化につながる観光振興を推進していく必要があります。

⑥ 防災・防犯

【防災】

□ 地球規模の環境変化に伴う異常気象や集中豪雨などの予想のつかない災害の発生頻度が全国的に高まっていることから、災害に備えた防災力の向上が望まれます。

《市民意向調査》

「火災・地震・風水害など災害に対する安全性」については、現状に対する満足度が低く、さらに今後のまちづくりにおける重要度が高いことから、安全で安心して生活できる環境づくりが強く求められています。

【防犯】

□ 全国的に地域社会の連帯感が薄れているなかで、犯罪の増加が懸念されていることから、地域ぐるみでの防犯体制づくりが望まれます。

《市民意向調査》

「犯罪に対する防犯への取り組み」については、現状に対する満足度が低く、さらに今後のまちづくりに対する重要度が高いことから、安全で安心して生活できる防犯体制づくりが強く求められています。

概況・課題の総括

《市の概況・特性（ｐ８～ｐ17)》

① 地形等

- □ 東西、南北とも約 38 ㎞、総面積 82,597ha、都市計画区域 5,923ha
- □ 北上高地の中南部に位置し、標高 1,917ｍの早池峰山を最高峰に、標高 300～700ｍの高原群が周囲を囲み、市域の中央部の遠野盆地に中心市街地を形成
- □ 冷涼な気候と豊かな自然環境
- □ 農畜林業を基幹産業とし、米を中心に野菜、ホップや葉たばこなどの工芸作物、畜産の複合経営
- □ 日本一の乗用馬生産地

② 人口等（平成 27 年国勢調査）

- □ 人口 28,062 人（都市計画区域に約６割の人口が集中）、9,973 世帯、世帯当たり人員 2.81 人／世帯
- □ 高齢化率 37.4%（県平均 30.4%）、年少人口率 10.7%（県平均 11.9%）

③ 土地利用

- □ 都市計画区域の約 34.0%が山林、農地が約 45.6%となっており、自然的土地利用は約 82.6%
- □ 住宅地、商業地、工業用地や交通用地などの都市的土地利用は約 17.4%
- □ 市域の約 92.8%が都市計画区域外であり、約 7.2%が都市計画区域
- □ 空き店舗等の増加による中心市街地の空洞化・衰退化

④ 市街地整備等

- □ 下一日市地区、稲荷下地区、稲荷下第二地区の３地区の土地区画整理事業が完了済み
- □ 東北横断自動車道釜石秋田線の開通や遠野ＩＣ及び遠野住田ＩＣの整備完了
- □ 都市計画道路として 23 路線が都市計画決定されており、整備率は約 64.1%
- □ 都市計画決定している公園・緑地は、街区公園が５箇所、地区公園が１箇所、運動公園が１箇所、緑地が１箇所の計８箇所
- □ 汚水処理人口普及率が 65.1%（県全域約 79.0%）

⑤ 観光等

- □ 藩政時代に城下町・宿場町として繁栄
- □ 民俗学者・柳田國男の『遠野物語』により、「民話のふるさと遠野」として知名度が高い
- □ 観光施設が市域全域に点在
- □ 主要観光施設に年間 180 万人以上が訪れる観光都市

《意向調査における今後のまちづくりに対する優先度（ｐ21～ｐ24)》

意向調査における「地域の現状に対する満足度」及び「今後のまちづくりにおける重要度」の結果から抽出した、今後のまちづくりにおいて優先的に取り組む必要が高い項目

- □ 歩道の確保や交差点の改良などの交通安全対策
- □ 公共施設のバリアフリー化
- □ 下水道・農業集落排水・浄化槽の整備
- □ 医療・介護・福祉関連施設の整備・利用のしやすさ
- □ 火災･地震･風水害など災害に対する安全性
- □ 犯罪に対する防犯への取り組み
- □ 商店街の充実、日常の買い物の利便性

《時代の潮流（ｐ25・26)》

- □ 人口減少、少子高齢化、世帯小規模化
- □ 成長型社会から成熟型社会への転換
- □ 価値観の多様化
- □ 水と緑への関心、生物多様性の確保への要請の高まり
- □ 低炭素型・循環型まちづくりへの要請の高まり
- □ 安全・安心への関心の一層の高まり

《まちづくり課題（ｐ27～ｐ31)》

■都市機能に関する課題

① 都市機能の維持・集約

- □ 公共事業の選択と集中、効率化が求められていることから、「都市の機能を維持・集約し、利便性の高いまち」を目指していくことが課題

② 中心市街地の活性化・魅力向上

- □ 中心市街地には、集客性のある魅力資源がありますが、商店街の衰退や空き家の増加などによる中心市街地の空洞化・衰退化が深刻な課題

③ まちの活力の維持・増進と秩序ある土地利用の誘導

- □ 遠野ＩＣ及び遠野住田ＩＣ周辺などにおける秩序ある土地利用の規制・誘導

■分野別の課題

① 土地利用

- □ 遠野ＩＣ及び遠野住田ＩＣ周辺の立地条件を活かした土地利用の推進
- □ 用途地域が指定されていない区域における秩序ある土地利用の規制・誘導

② 道路・交通

- □ 安全で快適な生活道路の整備
- □ バスや鉄道などの公共交通機関の利便性の向上

③ 都市施設（公園・緑地、下水道など）

- □ 地域ニーズや地域特性に対応した整備・市民協働による管理の充実
- □ 生物多様性の確保への要請の高まりに対応した緑地整備
- □ 浄化槽・下水道・農業集落排水の整備による下水道（汚水）処理
- □ 駅周辺や主な公共施設のユニバーサルデザインに配慮した整備

④ 景観

- □ 農村、里山景観の継承
- □ 歴史・文化が感じられる景観づくり

⑤ 観光

- □ 遠野駅周辺などにおける情報発信・交流拠点としての機能の充実

⑥ 防災・防犯

- □ 異常気象や集中豪雨など災害に備えた防災力の向上
- □ 地域ぐるみの防犯体制づくり